

鬼は外 福は内

節分の豆まきをしながら考えました。ちょっと妙なことと思われるかも知れませんが・・・内とか外とか言うけれど、どこからが内でどこからが外なのだろうか?と。例えば、自分のカラダの内と外はどこが境目なのだろうか?と。皮膚?それとも粘膜?あるいは?

食の仕事に携わっている私は、こんなことを考えながら仕事をしています。人間のカラダは60兆個の細胞からできていて、それが3ヶ月から6ヶ月で入れ替わるのだそうです。つまり、新陳代謝するわけです。(それは遺伝子の働きのおかげだそうです。)ですから、半年ぶりに会う人はすべからく「初めまして」なのだそうです。物質的には。

さて、その細胞は何によって作られるかと言えば、まぎれもなく、自分が選んで口に入れた食べものです。食べものは胃や腸で消化されて最終的に細胞をつくる材料として細胞そのものになってしまうわけで、食べものがカラダに影響があるとかいうレベルの話ではなく、食べもの=カラダということになります。水も大腸から吸収され細胞の一部になり、空気の酸素も肺からヘモグロビンで細胞に運ばれます。とすると、カラダのどこから内でどこから外か分からなくなってきました。私が思うのは、内も外もなく、すべてはつながっているというのが実相ではないかと。ここまでは内、ここからは外と決めているのは人の意識なのではないかと。

とすれば、自分だけ、自分の家族だけ、自分の会社だけ、自分のまちだけ、日本だけよければいいというのは成り立たないことになります。もちろん、自分にとってそれらが一番大切なのは当たり前。ですが、同時に隣の人も同じことを考えているということをお忘れしないということも必要だと思うのです。だってすべてはつながっているのですから。

豆まきで外へ追い出した鬼はどこへ行ってしまおうのでしょうか。「私の外は誰かの内」とすれば、誰かの家に鬼を追いやることになりはしないか。

今、「アメリカファースト!」と声高に叫ぶリーダーが注目されていますが、アメリカファーストは当たり前、つまり、自国を大切に思うことは当たり前だと思うのです。が、大切なことは、世界のどの国も自国が一番大切だと思っていることを知り、それを尊重するという姿勢ではないではないでしょうか。その上でどう隣人と共生していくのかを考えるということではないでしょうか。

国内を觀ても、これからの日本は人口が減り、高齢者が増え、今までの常識では処方箋が見つからない時代に突入しました。その中で、自分と家族と、自分の会社と、自分の地域が心豊かに暮らせる術への答えは、案外、自分の心の中にあるのかも知れません。

愛する小田原・箱根の次代のためにと、新たな決心をした節分でした。

会頭 鈴木悌介